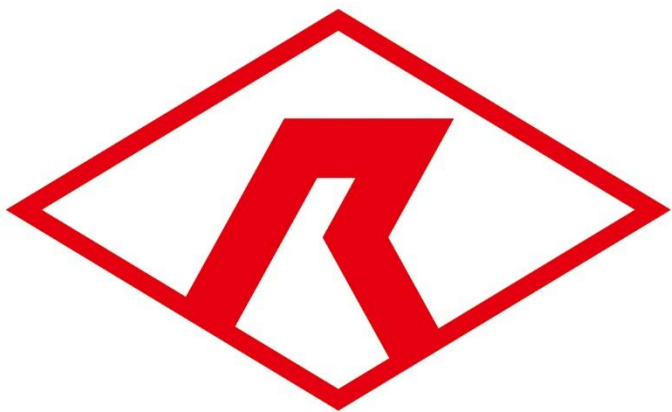




**2025年3月期 第2四半期（中間期）
決算説明会**

株式会社RYODEN

2024年11月14日
東証プライム
証券コード 8084

1. **RYODENについて**
2. **2025年3月期 第2四半期決算サマリー**
3. **セグメント別の実績・見通し**
4. **FAシステムの事業環境と下期見通しについて**
5. **資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて**
6. **株主還元、その他**



1. RYODENについて

設 立：**1947年**

事業所数：**国内27拠点、海外21拠点**

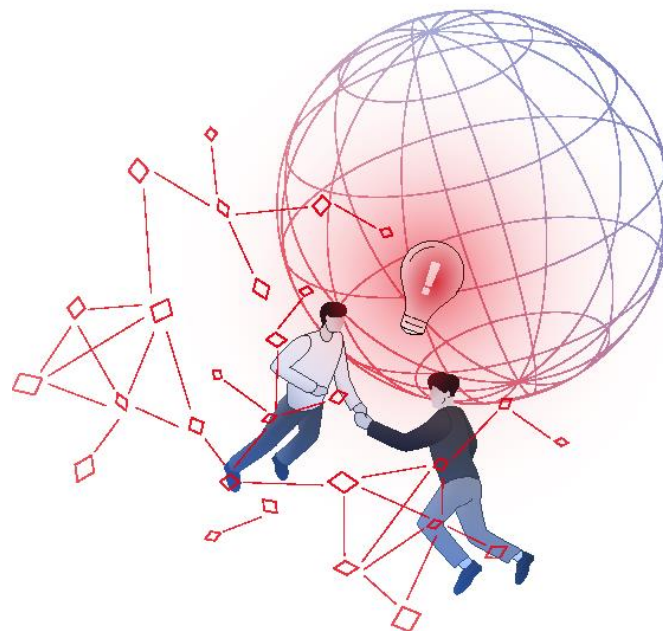
従業員数：**1,360名**

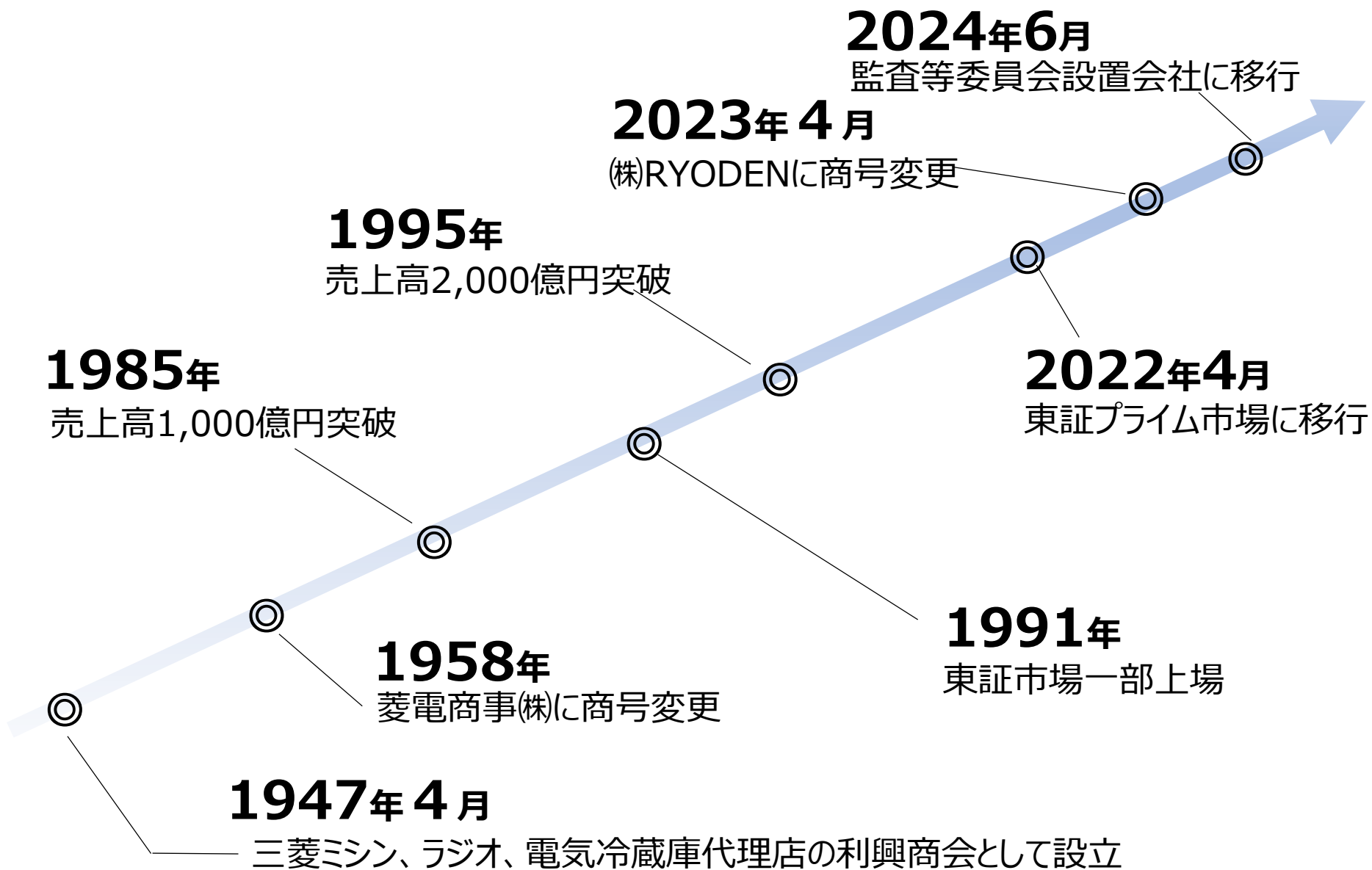
売上高：**2,590億円**

純利益：**57億円**

総資産：**1,560億円**

自己資本比率：**55.7%**





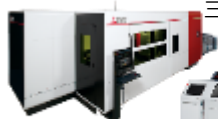
FAシステム



三菱電機(株)協働ロボット
(MELFA ASSISTA)



三菱電機(株)シーケンサ



三菱電機(株)製レーザー加工機



クボタ空調(株)製
エリア空調機室内機

ORDER MADE Elevator
NEXCUBE



三菱電機(株)展望用エレベーター

ファシリアDD



三菱電機(株)設備用パッケージエアコン

冷熱ビルシステム

520億円
(20.1%)

309億円
(11.9%)

売上高
2,590
億円

1,700億円
(65.6%)

X-Tech (クロステック)



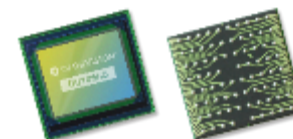
次世代型植物工場
Block FARM産 新
商品



医療情報システム
(イメージ)



ビデオカメラソリューション
(FlaRevo)



OMNIVISION製 CMOSセンサー



三菱電機(株)SiCパワーモジュール



CHIMEI製
カメラモジュール

エレクトロニクス

2. 2025年3月期第2四半期決算サマリー

2025年度 3 月期 第2四半期決算サマリー



(百万円)	2024年3月期 第2四半期実績	2025年3月期 第2四半期実績	増減	2025年3月期 期初見通し	2025年3月期 修正見通し
売上高	129,843	109,625	△20,218	219,000	218,000
営業利益	4,236	2,435	△1,801	7,200	5,500
経常利益	4,313	2,730	△1,583	7,300	5,800
当期純利益	2,900	1,936	△964	5,300	4,300
配当				106円	106円

(中間53円
期末53円)

- 第2四半期は前年同期比減収減益
- 通期は冷熱ビルシステム・エレクトロニクス（車載）は堅調に推移するものの、FAシステムの回復が想定よりも大幅に遅れることから**売上高及び各段階利益の見通しを下方修正**
- 年間配当金の予想は106円に据え置き

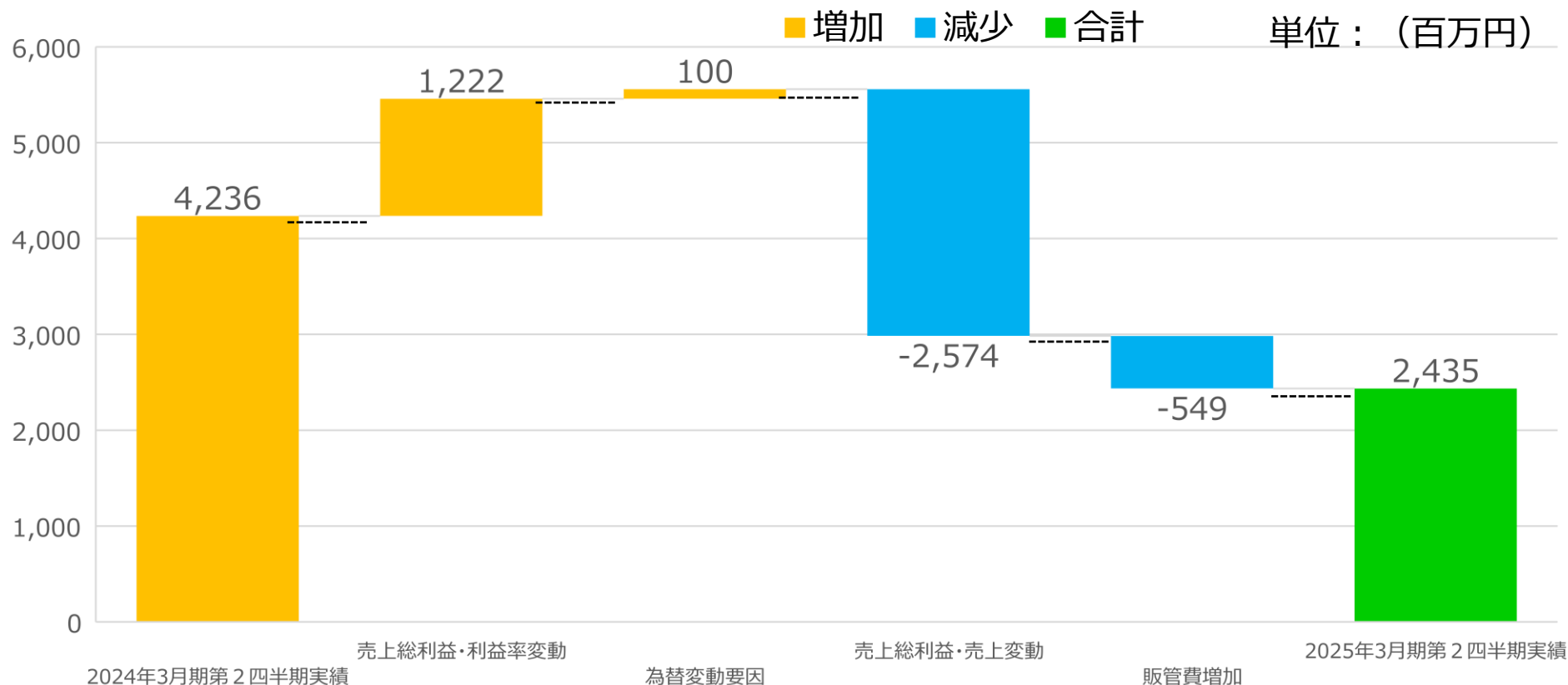
財務の状況



(百万円)	2024年3月期	2025年3月期 第2四半期実績	増減
総資産	156,027	143,856	△12,171
負債	68,944	54,646	△14,298
純資産	87,083	89,210	+2,127
自己資本比率	55.7%	61.9%	+6.2pt

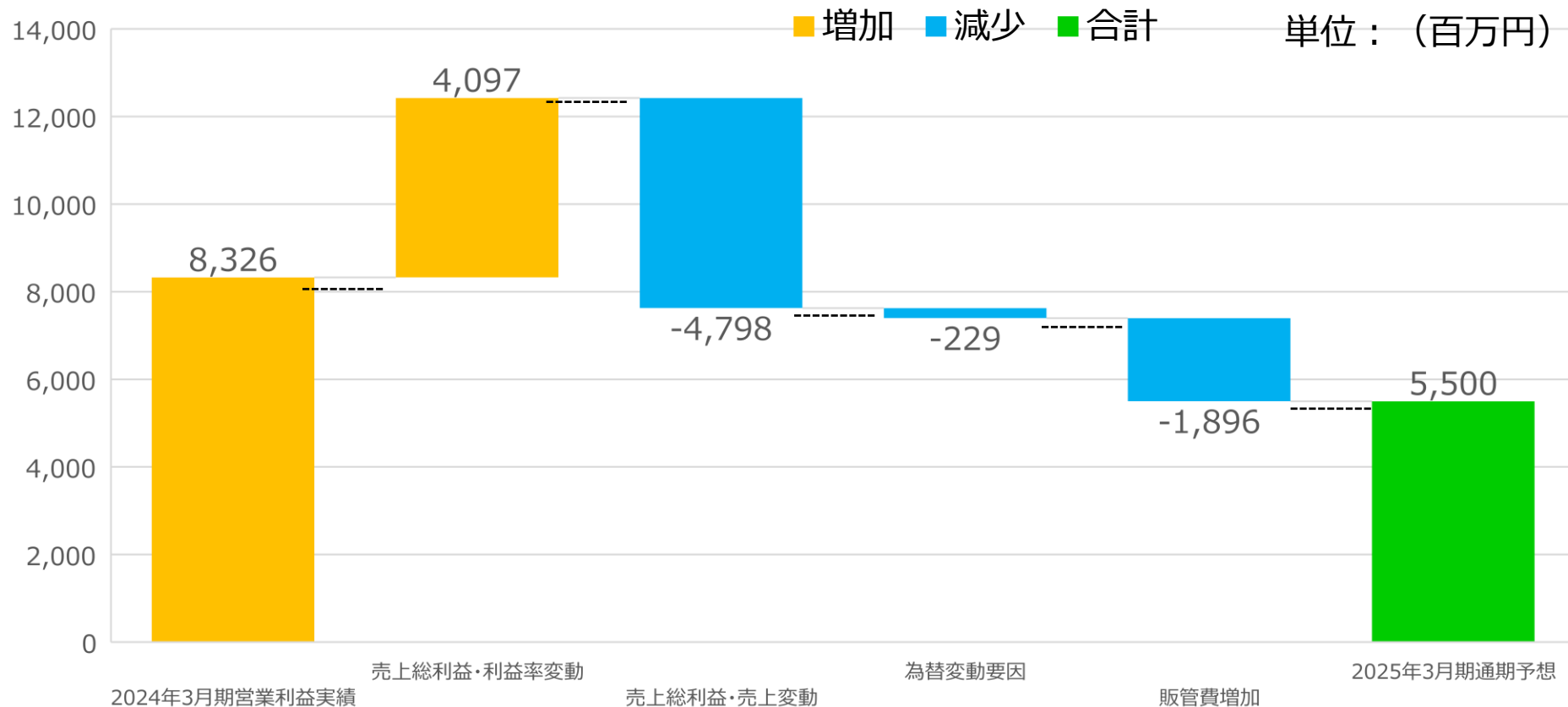
(百万円)	2024年3月期 第2四半期実績	2025年3月期 第2四半期実績	増減
営業活動CF	7,863	7,932	+69
投資活動CF	224	△301	△525
財務活動CF	470	△589	△1,059
現金及び現金同等物	20,012	26,152	+6,140

営業利益の増減益分析(24年3月期2Q実績-25年3月期2Q期実績)



- 売上総利益・販管費の増減は為替の変動要因を除く
- エレクトロニクスにおける主要取扱製品の売上が減少しましたが、売上総利益率は改善。
- 販管費の内訳は、人的資本投資、開発投資、技術戦略関連費用、プロモーションなど将来に向けた先行投資を継続。

営業利益の増減益分析(24年3月期実績－25年3月期修正後予想)

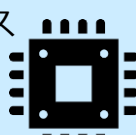


- 減益の主な要因は売上高の減少と販管費の増加
- 販管費の内訳は、人的資本投資、開発投資、技術戦略関連費用、プロモーション費用など将来に向けた先行投資を継続
- 想定為替レート：1USドル/145円

3. セグメント別の実績・見通し

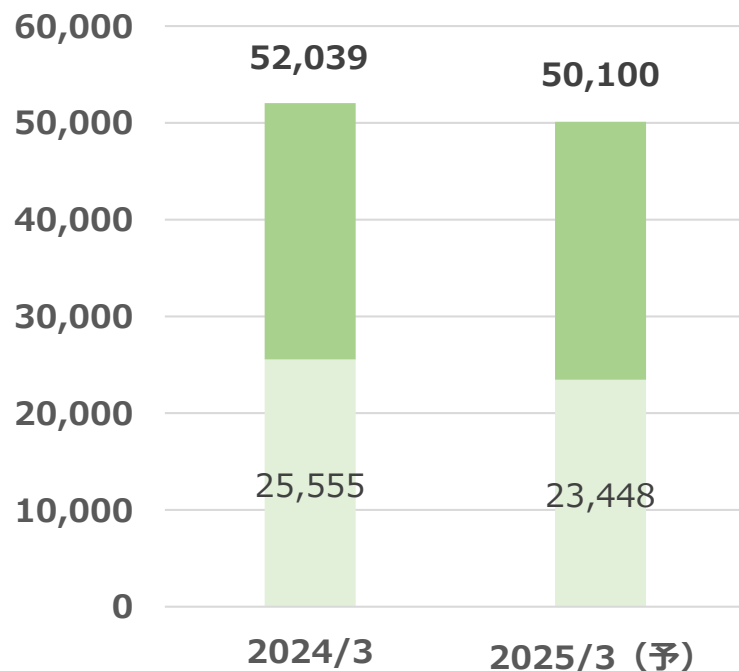


セグメント別 課題認識と企業価値向上の施策

	FAシステム 	冷熱ビルシステム 	X-Tech (クロステック) 	エレクトロニクス 
社会課題との関係	● 労働力不足への対応 ● 再生可能エネルギー普及	● 地球温暖化対策 ● 省資源	● 食糧問題 ● 医療従事者の減少	● 省エネ ● 高度な情報化社会
機会	● 労働力不足、生産効率向上のための自動化技術のニーズ	● 持続可能な社会の実現に向けた環境への負荷抑制	● 地球温暖化、スマート農業の大幅な拡大 ● 医療現場のDX化需要増	● エネルギー効率の向上 ● IoT製品の需要増加 ● 自動安全技術の向上
リスク	● 国内製造拠点の海外流出、地政学リスクなど製造業への予測不能な影響	● 資材高騰、労務費高騰などに起因する建設・設備投資の鈍化	● 資源高（電力・輸送費） ● パンデミックなどの医療崩壊	● 競合他社との競争激化 ● 技術革新への対応
企業価値向上のための施策	● 製造業DXを切り口にトータルソリューションを提供 ● 統合監視制御システム（Remces）の販売拡大	● メーカーとの縦の連携からお客様が求める価値にお応えするソリューションへ視点を変革して事業ドメインを拡大、他社ではできない価値を提案、販路を拡大	● 植物工場野菜の特長を生かせる市場を自ら創出するとともに光合成エンジニアリング技術をフードテック市場に展開 ● 医療ITソリューションビジネスに注力	● パワーデバイス・アナログ・センサーなどの販売を拡大 ● マーケティング機能を強化し車載を中心とした新規顧客の開拓と既存顧客への拡販強化
当社の強み	● 4つの基幹事業で培ってきた強みを掛け合わせ、新たな価値を創出 ● 最先端のICT技術を駆使し、一歩先を行くソリューションを提供 ● 国内27拠点、海外21拠点のグローバルネットワークを構築			

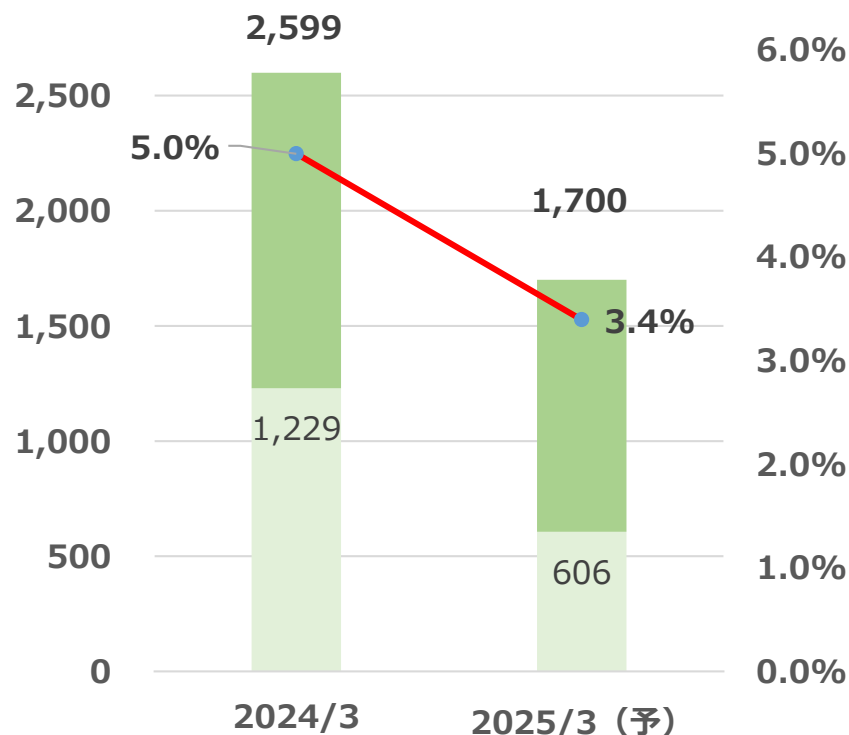
2Q 4Q

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)

営業利益率 (%)

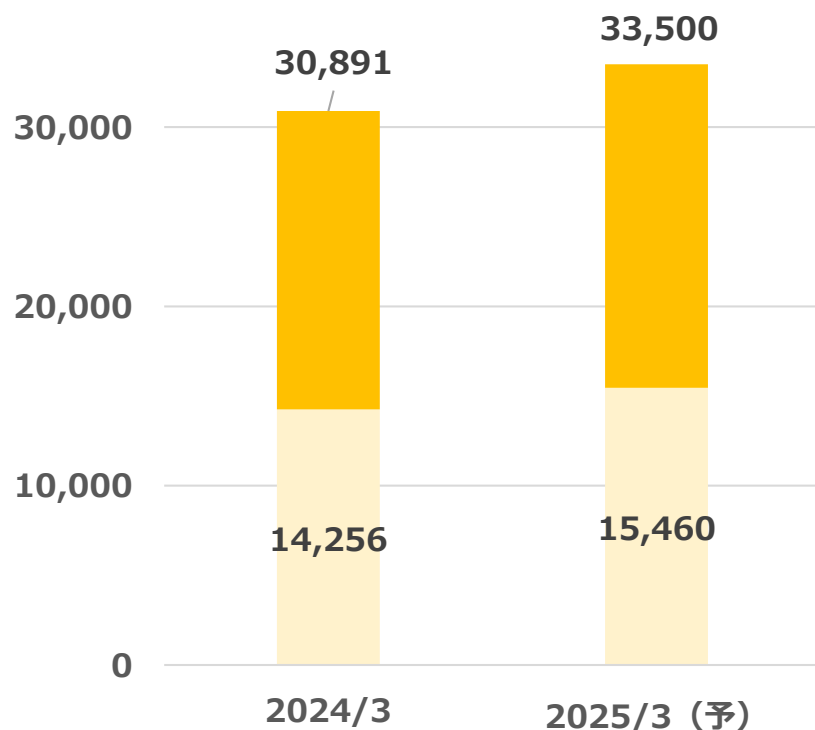


主なポイント

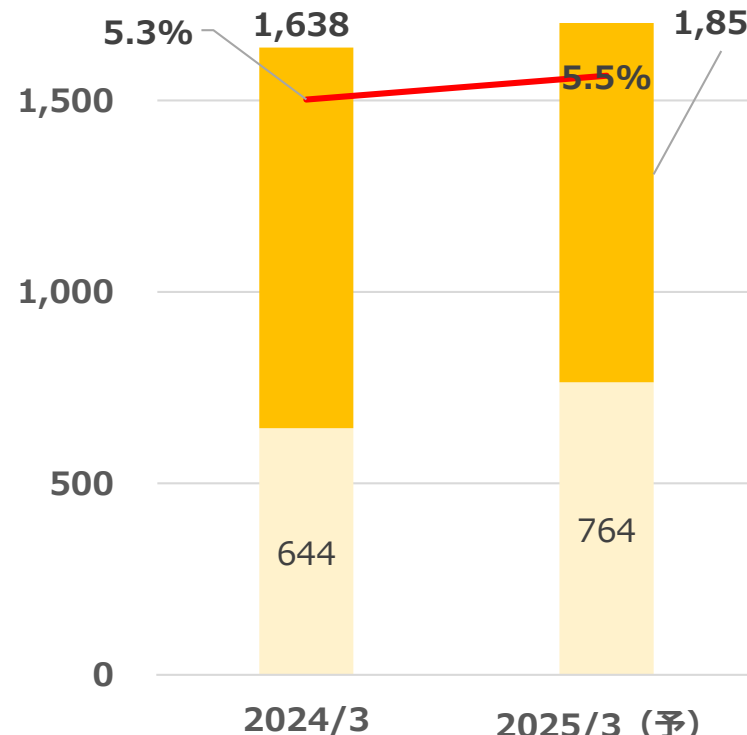
- ◆ 上期：省人化・省エネ化システム案件が伸長。一方で在庫消化の遅れ及び中国経済の停滞が継続し、生成 A I 関連の半導体製造装置メーカーを除き低調に推移。
- ◆ 下期：国内顧客の在庫消化の遅れに加え、中国経済停滞の長期化により当初想定していた回復が来期以降に遅れる

2Q 4Q

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)

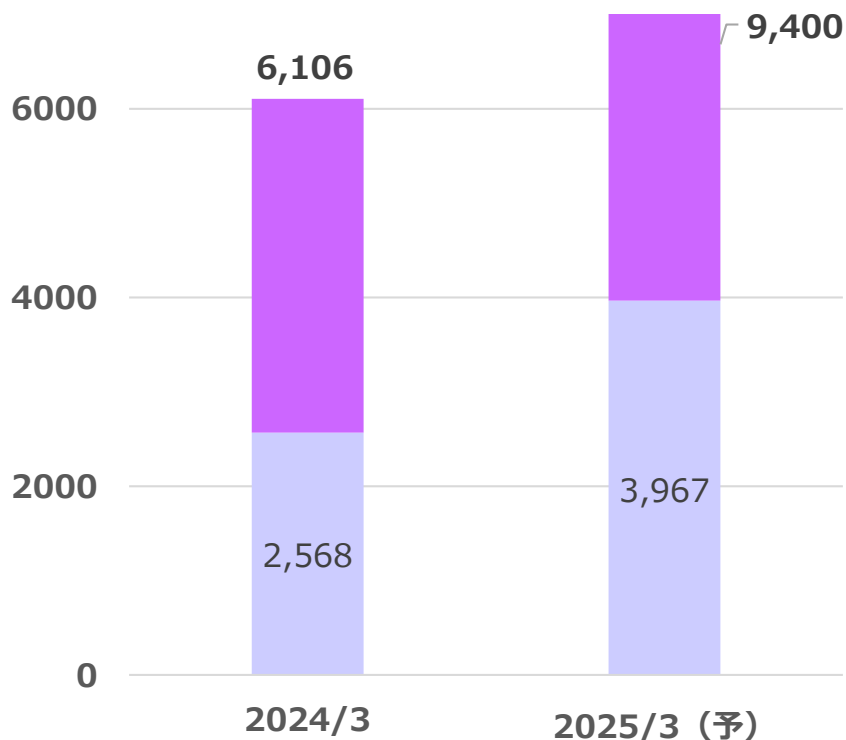


営業利益率 (%)

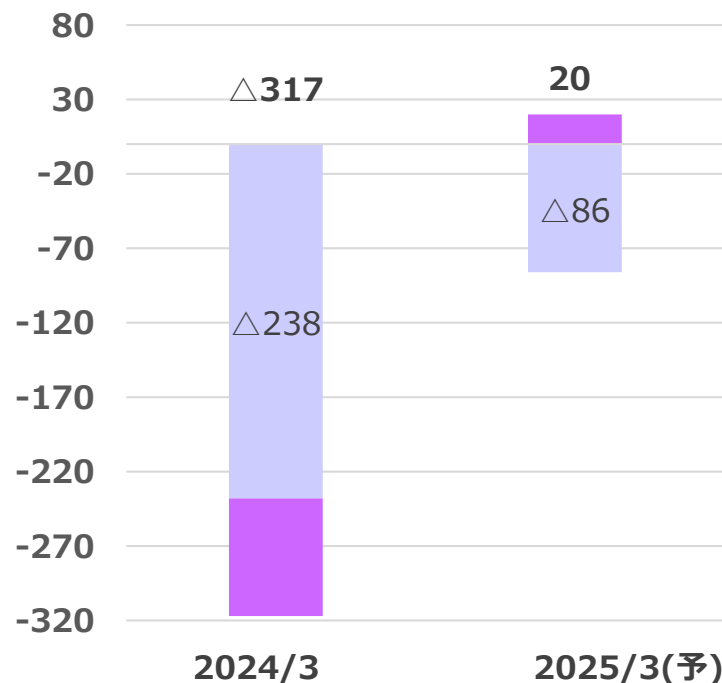
主なポイント

- ◆ 上期：冷熱分野では、店舗用エアコン、ルームエアコンや低温設備機器の販売が堅調に推移。ビルシステム分野では、環境やエネルギーに配慮した設備案件の受注獲得により好調に推移。
- ◆ 下期：投資が順調に進み、またコールドチェーンの再編による需要増も期待され好調に推移。

売上高（百万円）



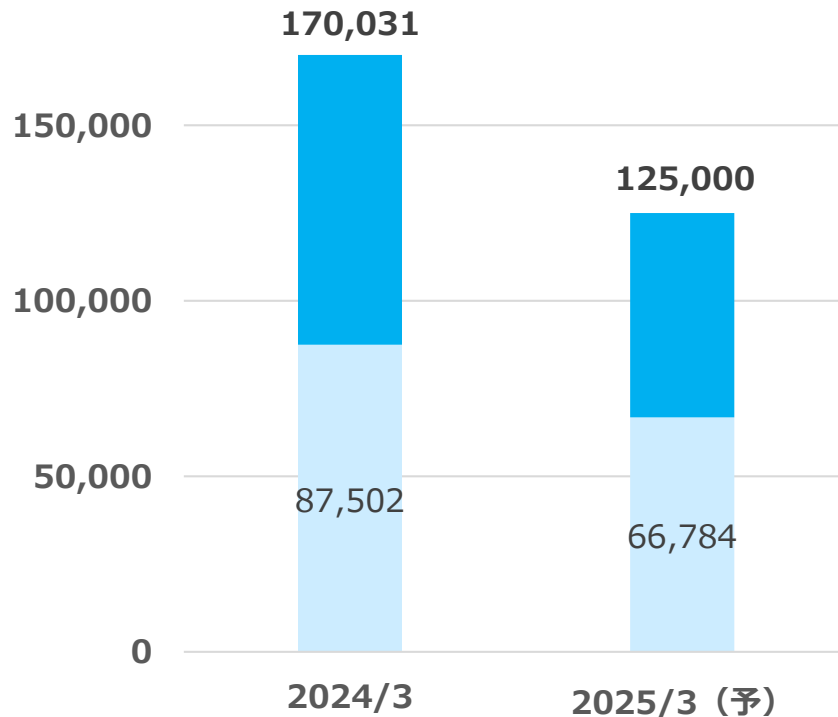
営業損失（百万円）



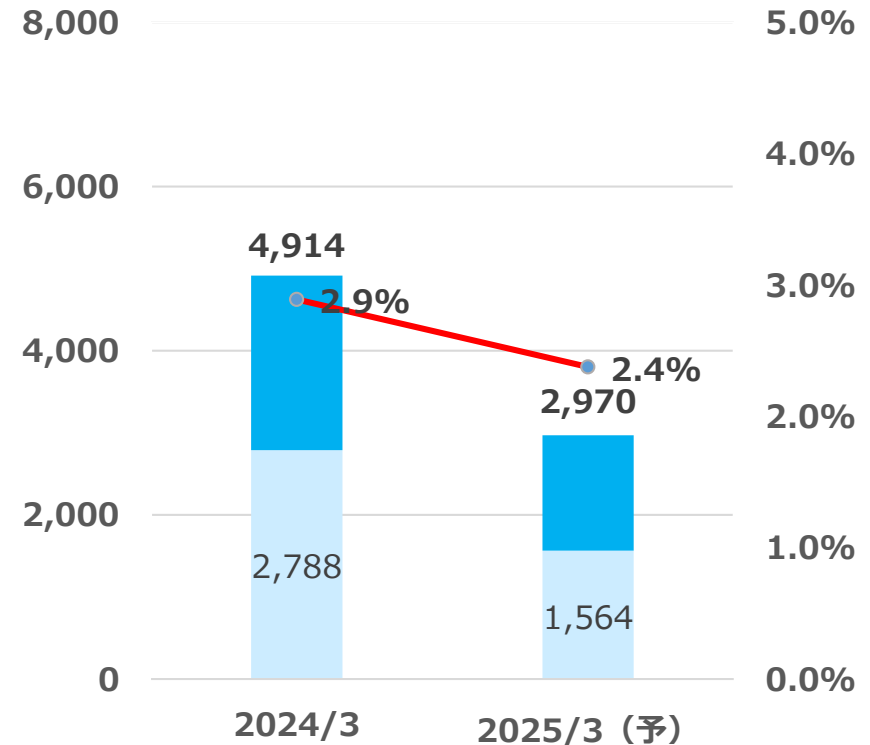
主なポイント

- ◆ 上期：ヘルスケア分野では、医療機関の設備投資が減少し低調に推移。I C T分野ではI T機器関連の販売は堅調。スマートアグリ分野では、持分法適用関連会社であった株式会社ファームシップを連結子会社化した影響で増収。
- ◆ 下期：スマートアグリでは植物工場の黒字転換により営業損失が大幅に縮小。引き続き、収益性の高いスマート農業の実現に向け、当社独自サービスの構築に取り組む。

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円) 営業利益率 (%)



主なポイント

- ◆ 上期：国内では、車載関連市場はメモリやセンサー I C等の販売が堅調、産業機器市場は中国の景気減速・顧客の過剰在庫による調整局面が続き低調に推移。海外は東南アジア地域の車載向けメモリが堅調。中国では民生・産業機器向けアナログ半導体等が低調、車載関連顧客も日系を中心に低調に推移。
- ◆ 下期：産業・民生は在庫調整が継続するものの、車載は好調に推移すると予想

2025年3月期 セグメント別実績・見通しサマリー



売上高 (百万円)	2025年3月期 通期予想 (5月時点)	2025年3月期 第2四半期実績	2025年3月期 下期予想	2025年3月期 通期予想 (修正後)
FAシステム	58,400	23,448	26,652	50,100
冷熱ビルシステム	34,200	15,460	18,040	33,500
X-Tech	9,600	3,967	5,433	9,400
エレクトロニクス	116,800	66,784	58,216	125,000
全社合計 ※1	219,000	109,625	108,375	218,000
営業利益 (百万円)	2025年3月期 通期予想 (5月時点)	2025年3月期 第2四半期実績	2025年3月期 下期予想	2025年3月期 通期予想 (修正後)
FAシステム	3,100	606	1,094	1,700
冷熱ビルシステム	1,950	754	1,096	1,850
X-Tech	130	△86	106	20
エレクトロニクス	3,100	1,564	1,406	2,970
全社合計 ※1	7,200	2,435	3,065	5,500

※1 全社費用含む

4. FAシステムの事業環境と下期見通しについて



4. FAシステムの事業環境と下期見通しについて①

- 国内顧客の在庫消化の遅れと中国経済停滞の長期化により、期初想定していた下期の回復が遅れが見込まれる。
- 引き続き当社の強みを伸ばし、業績向上を図る。

■ FAシステム国内及び海外の現状について

地域	現状
国内	✓ エンドユーザー向け省人化・省エネ化システム案件が伸長した一方、国内顧客の在庫消化の遅れと中国経済の減速により、生成 A I 関連の半導体製造装置メーカーを除き製造業向けの販売が低調に推移 ✓ 工作機械・半導体製造装置向けは下期から回復基調に転じることを想定し、前年比で増収増益を見込む
海外	✓ 中国のローカル半導体製造装置メーカー・工作機械メーカー向けの販売が好調に推移し、前年比で増収増益の見通し

4. FAシステムの事業環境と下期見通しについて②



各地域ごとに当社の強みを生かし、事業拡大を図る

地域	強み	今後の見通し／施策
国内	➤ 独自ソリューション ➤ 技術力	・ 独自ソリューションで製造業を中心に新規顧客開拓が進んでおり、自動化・省人化・DXなどの派生商談を獲得 ・ 技術者を積極的に採用するとともに、製品単体ではなく顧客課題を解決するシステムソリューションの推進を加速
中国	➤ ローカル顧客開拓	・ 半導体製造装置・工作機械関連のローカル顧客が売上構成の大部分を占めており、さらなる収益拡大を見込む ・ エンドユーザー向けエネルギー監視、自動化などのシステムエンジニアリングビジネスを推進
中国・ASEAN	➤ 拠点間ネットワーク ➤ ローカル顧客開拓	・ 中国からASEANに進出する企業をターゲットに中国⇔タイの拠点間ネットワークを活用した営業活動をスタート ・ マレーシア（ペナン地区）の有望半導体製造装置メーカーへの営業活動を推進

5. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

1.収益力の強化

2.株主還元の強化

3.IR活動の強化

PBR改善の施策

PBRの改善

ROEの改善

- ・資本コストを上回ることを意識した経営
- ・ROICを用いた収益性、成長性の向上



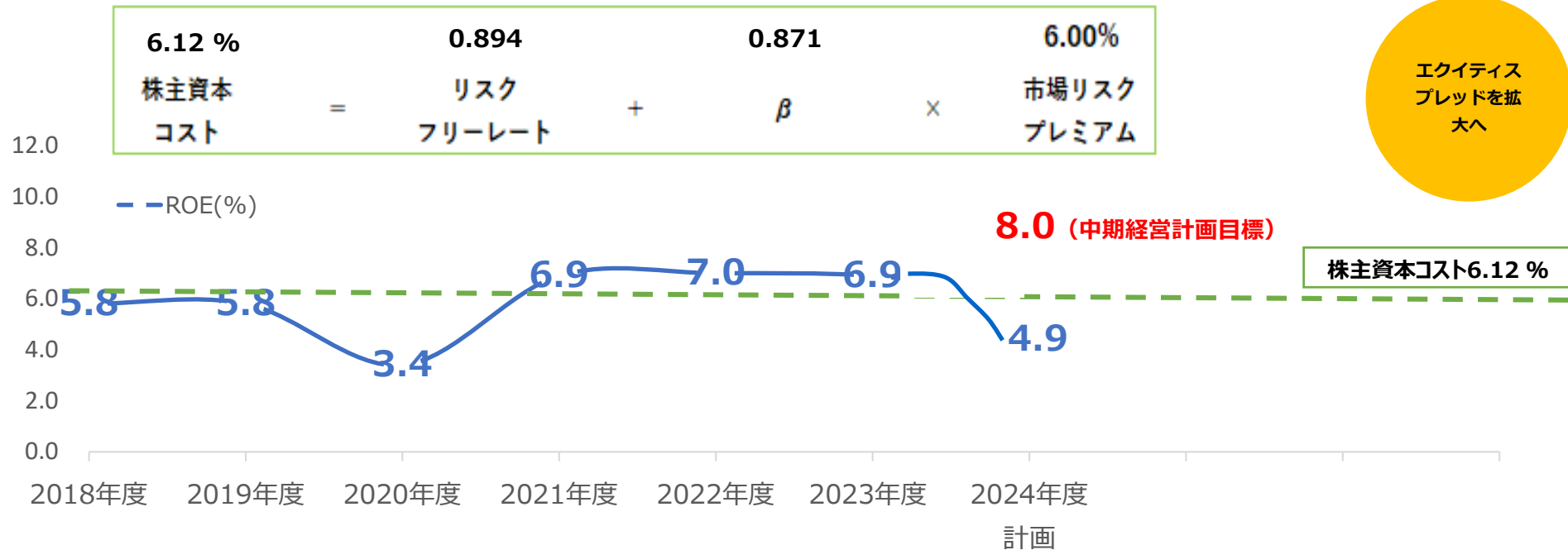
PERの改善

- ・サステナビリティに関する取り組みの推進
- ・IR活動の強化
- ・株主還元方針の明確化



市場評価と資本収益性の現状分析と対応

【目標ROEと資本コスト】



ROEは引き続き目標（8%超）の達成に向け取り組んでまいります。



資本コストや株価を意識した具体的施策と今後の予定

実施時期	目的	具体的施策
■ 2025年3月期の実績と予定		
2024.5	中長期視点での経営を後押しするインセンティブ導入	譲渡制限付株式報酬制度（RS）の導入を決議（株式報酬型ストックオプションは廃止）
2024.5	株主還元強化	3期連続増配を取締役会で決議
2024.6	多様性の確保とサステナビリティ経営の一層の強化	外国人取締役（再任）に加え女性取締役を複数選任。
2024.6	資本コストや株価を意識した経営の実現を推進・加速	役員報酬制度のKPIを変更
2024.9	経営方針及び事業の理解促進	統合報告開示（英文版は11月）
2024.11	経営方針及び事業の理解促進	能動的なSR面談スタート

【2024年～2025年】事業ポートフォリオおよびキャッシュ・アロケーションなど含めた資本戦略を次期中期経営計画で開示予定



過去5年間の各種指標推移

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2024年3月期 第2四半期
売上高（百万円）	196,841	229,126	260,303	259,008	109,625
営業利益（百万円）	3,415	7,062	9,380	8,326	2,435
経常利益（百万円）	3,653	7,285	9,077	8,236	2,730
親会社株主に帰属する当期純利益（百万円）	2,343	5,004	5,366	5,736	1,936
営業利益率（%）	1.7	3.1	3.6	3.2	2.2
ROE（%）	3.4	6.9	7.0	6.9	2.2
PBR（倍）	0.51	0.50	0.51	0.68	0.63
一株当たり純資産額（円）	3,208.01	3,427.24	3,652.29	3,976.49	4,060.61
期末株価（円）	1,649	1,704	1,870	2,710	2,468

Purpose : 当社が進むべき道しるべ

**人とテクノロジーをつなぐ力で
“ワクワク”をカタチにする**

ビジョン : 2050年の目指す姿

**100年企業として「環境」「安心」「安全」で
サステナブルな社会の実現に貢献する**

あるべき姿 : 2024年のRYODEN

**代理店、商社の枠を超えた事業創出会社として
新たな価値を生み出しつづける**

100年企業として「環境」「安心」「安全」で サステナブルな社会の実現に貢献

PBR 1 倍超の実現

中計達成

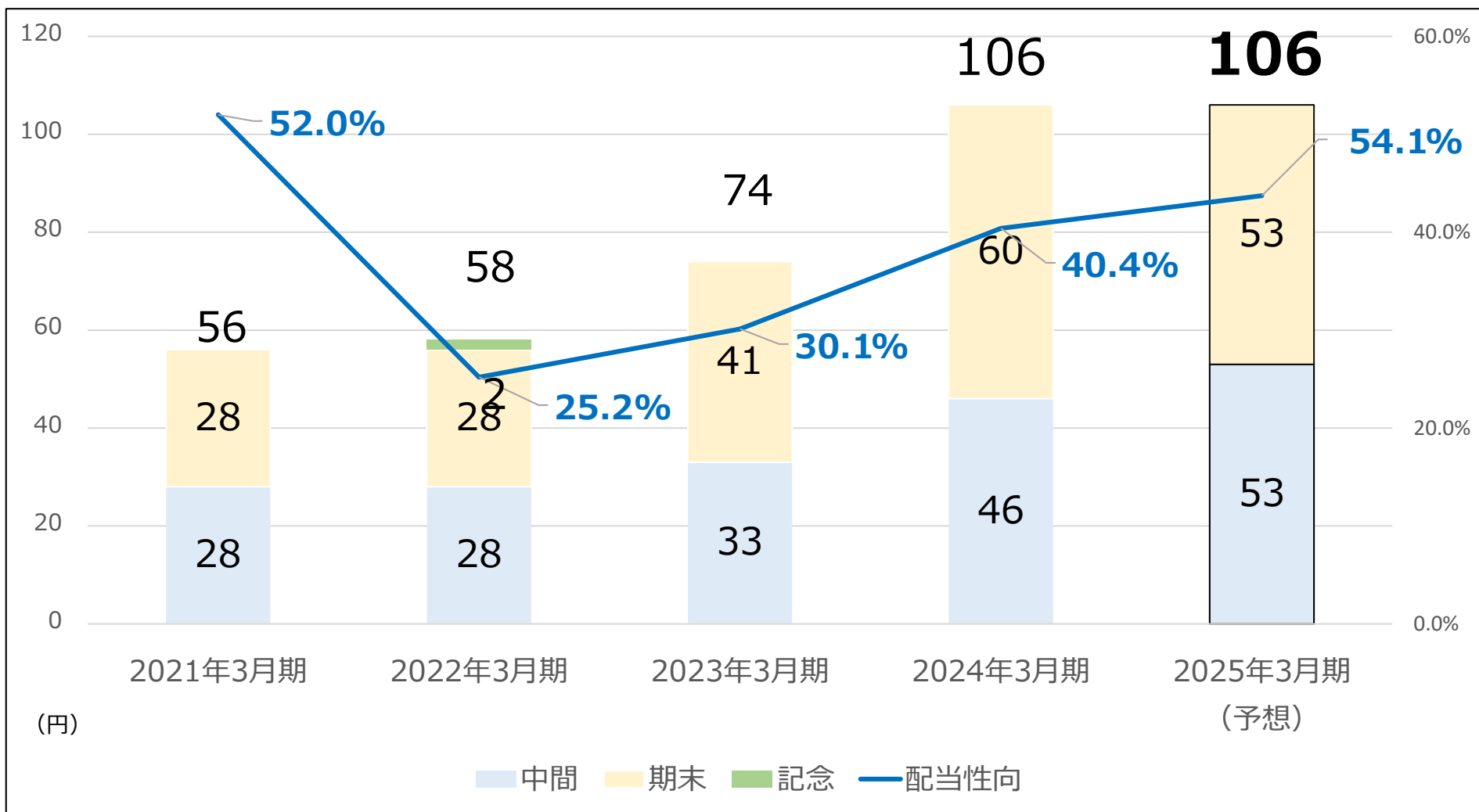
- 収益力の強化
- 株主還元の強化
- IR活動の強化

6. 株主還元、その他

配当金・配当性向の推移

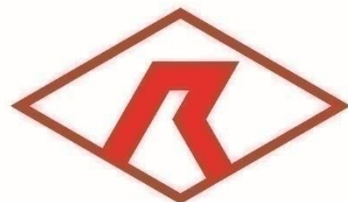


中長期的な安定配当は維持・継続しつつ、配当性向40%～60%を目安に還元



RYODENグループは
100年企業として
環境・安心・安全で
サステナブルな社会の実現に貢献します※

※中期経営企画「ICHIGAN2024」で掲げたビジョン：2050年の当社の目指す姿です。



RYODEN

〒170-8448 東京都豊島区東池袋3-15-15

総務部 IRグループ

e-mail:ryoden_ir@mgw.ryoden.co.jp

TEL:03-5396-6112

FAX:03-5396-6448

資料の取り扱い上のご注意

このプレゼンテーションで述べられている業績計画等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。その要因のうち、主なものは以下のとおりです。

- ・主要市場（日本、アジア等）の経済状況、消費動向及び製品需給の急激な変動
- ・ドル等の対円為替相場の大幅な変動
- ・資本市場における相場の大幅な変動等